

島田市役所周辺整備基本構想検討委員会 第7回会議 議事概要

1 日時 平成30年6月25日（月） 午後6時15分～午後8時30分

2 場所 島田市役所本庁舎会議棟1階 大会議室

3 出席者

(1) 委員

海道委員長、森澤副委員長、荒井委員、石川委員、伊藤（治）委員、伊藤（歩）委員、杵塚委員、兒玉委員、佐久間委員、佐野委員、鈴木委員、高橋委員、中林委員
(13人中13人出席)

(2) 事務局

行政経営部資産活用課 鈴木課長、高木課長補佐、岩本係長、福田書記

4 概要

(1) 開会

(2) 報告事項

次の点について事務局から報告した。

- ・中高生アンケート、来場者アンケートの結果（速報）について

※報告事項に対する委員からの意見については、協議事項①への意見と一括していただいた。

(3) 協議事項

次の点について協議した。

①意見書案の検討について

委員からの質問・意見は以下のとおり（○：質問・意見 →：事務局回答）

- 庁舎も文化施設も建物の更新の際には規模の設計が重要になってくる。新しい社会になりつつある中で、更新する際の約束事があった方が良い。大きな施設を作るに当たり、人口減少や官民の役割の変化へ対応できるかどうか重要となるが、その点は今後の検討に委ねられることになると思う。
- 中高生のアンケートでの意見に、将来の市の財政に懸念を抱いている内容が比較的多く見られたのが印象的であった。公共施設のあり方については、最近、減築や将来のフレキシビリティ、機能の複合化等多岐にわたった検討が行われているので、今までの公共施設のあり方から一歩踏み込んで、島田市ならではのアイデアがワークショップやアンケートの結果から見出せると良いと思う。
- 下田市の新庁舎の基本理念の中に「地域性・下田らしさ」とあるが、それを参考にして市役所周辺に住民、観光客を呼び込むには市役所周辺整備に「地域性・島田らしさ」を取り入れていく必要があると考える。防災拠点として、防災の勉強の場と位置付けることも考えられる。

- 市民の皆さんが使いやすく、訪れやすい庁舎にするだけでなく、管理する側からの視点からメンテナンスしやすいシンプルな建物とすることにも考慮すると良いと思う。
- 当初は新病院建設や新東名島田金谷インターチェンジ周辺整備といった大規模プロジェクトが同時並行で進む中、民間企業で言う債務超過の懸念から新たな施設整備に対し慎重な考えを持っていたが、債務の返済に関する市の考え方を聴くことで財政面の不安が払拭された。委員間で意見交換する過程で触発され、また市民ワークショップで出た「稼ぐ」という意見、市民アンケートにおいて「賑わい」という意見が多いことから、庁舎の中に商業ベースの文化ホールを設けて複合化する案に傾いた。いかに稼ぐかという視点も必要。会議で提示されたような建物整備を緩慢なく進められる案で進めるのが良いと思う。また、現在プラザおおるり内にある防災機能の拠点機能は新庁舎の中に戻すべきである。
- 庁舎に手続きのためだけに訪れるのはもったいない。いかに多様な機能をつけて、そこからどう賑わいにつなげていくかという視点があると良い。その際、ハードありきで考えるのではなく、文化に対する島田市のスタンスを示すべき。財政の事情のみで文化を切り捨てるべきではないが、だからといって施設ありきではない。夢づくり会館とチャリム21は単にコミュニティ施設と位置付けるのではなく、ソフトの視点から役割を明確化すべきと考える。
- 意見書案は島田市の身の丈に合った内容になっている。まちづくりの観点から文化、市民サービス等についてはさらに検討する期間があった方が良い。その上で規模、機能を検討していくかたちにしたら良いと思う。
- 新庁舎については、まず現状を踏まえて本来の機能を優先的に考え、その上で市民の交流、協働、賑わいをもたらす機能は必要だと思っている。第三街区に賑わいが見られないことから、市役所周辺整備から新たな活力が得られればと思う。市民アンケートで多数寄せられた分散配置の考えは、支所のことを指しているのかどうか、コンビニ交付の現状把握なども含めて確認が必要。「リノベーション」など新しいことが起こることを予感させる言葉を使ったり、仮に東西の敷地を結ぶ橋を設ける場合も単に「連絡通路」とせず、かつて島田市が担った東西の交流を結ぶまちを体現するなど、市民が期待感を持てるような内容を盛り込まれたい。
- 中高生アンケートから子どもたちが島田を賑やかにしたいという熱意を持っていることを感じた。これまで新しい施設を整備することでそこに多くの人が訪れている。施設を整備することがきっかけ作りとなり、そこに人を呼びたいと思っている。
- 文化施設と庁舎をランドマーク的に一緒に整備するという素敵な絵を描くのは難しくなったが、市の文化施策があって、その実現のためにどういった施設が必要なのかを考えると本来の順番で進めていくということなので良かったと思う。文化施設が成功するかしないかは人次第。そして、施設整備後の運営にどれだけの予算を投じることができ、さらにそれを継続させることができるかが極めて重要である。
- 構想の段階であるので、次の計画に委ねる部分があっても良いと思う。市役所周辺地区の整備計画の検討に当たって考慮すべき点に防災の視点も入れていただきたい。
- 「デジタルネイティブ」とも呼ばれる若い世代がネットを活用する中で商店の賑わいが失

われている。賑わいの創出は重要であり、そのために駐車場確保の問題を考えなければならない。他市で施設があっても駐車場が不足していて活用できない事例が見られるが、そのようにならないよう配慮が必要。また、縦割り行政ではなく、横断的な組織を作り、市民が寄りやすい場所にすると良い。

○文化施設について「文化芸術を発表する場」「世界の芸術に触れる場」という位置付けを加えていただきたい。

○財政面への言及が必要。市民にとって過度な負担とならないように配慮すべき。

②市役所周辺整備に関する基本理念及び基本方針について

市役所周辺整備に関する基本理念及び基本方針策定につなげるため、ワークショップ形式で協議を進め、委員からキーワードが出された。

【主なもの】

- ・市民のため…市民が行きやすい、誰でも安心して利用する、みんなに愛される、居場所、未来の世代に送る風景を
- ・にぎわい…新たなにぎわいを創造する、楽しい、活力と笑顔、わくわく、島田の元気が生まれる
- ・安心安全…頼れる拠点、あんしんの拠点、市民の安全で安心な暮らしを守る
- ・環境…環境適応性、環境にやさしい、持続可能、エネルギー利用
- ・多機能…バリアフリー、多様、便利
- ・個性…ここでしか味わえない、個性を生かせ
- ・歴史…島田の歴史と文化を生かす街づくり、歴史が息つく
- ・文化芸術…文化芸術の交差点、みんなの交差点
- ・その他…新たなステージ、世界を感じられる

今後、上記の結果を踏まえて、基本理念及び基本方針策定の検討を進めることとした。

